

細野龍子

29日
7番目



細野龍子市議は、

特別養護老人ホームを増設し、1700人の入所待ちゼロを求めました。いきいき健康部長は「2011年までに614人の特別養護老人ホームをつくる」と増設計画を示しました。細野市議は、その後の計画を追及し、「2010年11年で実態を調査し、その後の増設にむけての提案をおこなう」と前向きな答弁を引き出しました。また、利用料の高い個室タイプばかりでなく、複数で利用する多少室を早急に建設するよう求めました。

次に、障害者自立

特別養護老人ホームの増設で入所待ちゼロに



支援法の自己負担の軽減策を求め質問をおこないました。給食費の個人負担について、「通所すると半額補助があるのに、欠席した時は全額個人負担となる」という矛盾を指摘し、施設の補助を月単位で計算し、増額するよう強く求めました。地域福祉部長は「施設補助の日額換算が問題で要請したい」と答弁。

金森地域のコミュニティバスの運行を継続するよう求め、都市づくり部長から、バス停の増設など運行継続に努力すると答弁がありました。ニティバスの運行を減策は考えていないとしました。高齢女性を差別する乳がん検診の「40歳から70歳まで」の年齢制限については、「いま上限の廃止を検討している」と前向きな答弁がありました。

少人数学級の早期実施を求める質問には、教育部長から、



佐々木智子市議は、

高齢者の医療・介護の充実を求めました。4月から後期医療保険料が引き上がる対象者は間にいきいき健康部長は、「全体の4割にあたる年収168万円以上（月14万）の方が値上げになる」と答えた

乳がん検診は70歳をすぎても実施を

今年から始まる「小一」「中一」での39人学級に該当する学校が、小学校8校、中学校7校あり、東京都からの教員加配を積極的に活用したいとの答弁がありました。来年は「38人」、再来年は「37人」と学級規模がさらに縮小される予定です。

また、小学校廃校跡地に特養ホーム誘致など地域特性を生かした活用を求める間には、政策経営部長が「市有財産を効果的に活用するため基本方針を、2010年度中には公表して意見を伺いたい」と答弁しました。廃校跡地は地元住民の思いの詰まった場所なので、地域要求を反映するよう求めました。

佐々木智子

30日
1番目

殿村健一

30日
5番目



殿村健一市議は、

市長・市議選の最大の争点だった「新庁舎建設と大型開発をやめて、市民の暮らし第一の市政を」に、市民の緊急の願いである、4つのゼロ（保育所の待機児童、特養ホームの入所待ち、中学3年生までの医療費、75歳以上の医療費）実現を最優先で行うべきだが、どうかとただしました。副市長は、新庁舎建設は計画通りに進める、医療費のゼロは「現在のところ考えていない」と答えました。

東京都の「多摩の拠点整備基本計画」と町田市の「中心市

新庁舎建設と大型開発をやめて、暮らし第一の市政を

街地活性化基本方針」は、新庁舎建設を突破口にした中心市街地の大型開発などが位置付けられています。「大型開発への道は進むべきではない」とただしたのに対して、担当部長は「基本計画と基本方針の整合性をはかつていく」と大型開発をすすめる考えを示しました。

石阪市長の「当面の施政方針」では、市長自らが有罪判決を受けた「政治資金パーティー事件」の教訓がまったく語られていません。真に市民に信頼される市政の実現のために、どのような政治姿勢で2期目に望むのかをただしたのに対して、市長は「すでに決着済みである」と不誠実な答弁でした。